

なごやか地域福祉ニュース

2021. 4

第39号

発行：なごやか地域福祉2020推進事務局

方向性2

一人ひとりの「暮らし」を支える仕組みをつくる

「なごやか地域福祉2020」における3つの取り組むべき方向性から、第38号では、方向性1「つながり支えあう地域をつくる」についてご紹介しました。

今回は、方向性2「一人ひとりの「暮らし」を支える仕組みをつくる」についてご紹介します。



福祉課題・生活課題

支援が必要な人と必要な支援が結びついていないことの問題



方向性2

一人ひとりの「暮らし」を支える仕組みをつくる

～支援を求めている人、手助けが必要な人を支える～



③ 様々な困りごとを丸ごと受け止め支える仕組みづくり

I. 相談窓口や公的サービスの利用促進、連携とアウトリーチによる支援の推進

II. 丸ごと相談や複合的な課題等を抱える人への包括的な相談支援の推進

III. 生活困窮、住まい、自殺対策の取組みや犯罪をした人の社会復帰に関する支援

④ 地域で安心して暮らし続けるための支援の仕組みづくり（権利擁護の推進）

I. 判断能力が不十分な人等への本人の意思を尊重した支援

II. 高齢者、障害者、児童等に対する虐待や配偶者に対する暴力の予防、早期発見と相談支援





南区社会福祉協議会では、制度の狭間や複合的な課題を抱える世帯等への支援に対応する「地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援体制」のあり方を調査する業務を実施しています。一体どのような業務なのか、南区社協の馬場次長、長濱主事にインタビューしてきました！

Q. 業務内容を教えてください！

A. 8050 問題や引きこもり、ごみ屋敷といった複雑な課題を抱え、支援につながらない困りごとを抱えた人がどのくらいいるのか、どんなことで困っているのか実態を把握しながら、支援をしています。支援をすすめていく中で、地域支えあい事業をはじめとする住民相談窓口と連携し、地域で埋もれているニーズを発見したり、困りごとへの対応を一緒に考えたりします。また、関係機関とネットワークを作りながら相談支援を行っています。

Q. これまで、どのようなケースを支援してきましたか？

A. 精神疾患等の疑いがあるけれど病識がなく支援につながっていない人、中高年の引きこもりの人、8050 問題の「50」に当たる人などです。さまざまな課題を抱えていても、支援につながっていない、いわゆる制度の狭間と呼ばれるケースです。

Q. 日頃の業務で大事にしていることはありますか？

A. 相談が入るのを待つのではなく、自分たちから地域に出向いて、地域住民の方たちに心配な方がいないか、困っていることがないかお話をうかがうようにしています。どこに相談したらいいのかわからないため、支援につながらずに埋もれてしまっている困りごとがあると思うので、少しでも拾い上げていけるように意識しています。

Q. 最後に、改めて一人ひとりを支えるために必要なことは何だと思いますか？

A. まずは支援が必要な方へアプローチする姿勢だと思います。周りの方からお話をうかがうだけではなく、一度お会いすることで人となりや困りごとが見えてきます。

次に、支援が必要な方、連携する関係機関を知ることです。制度の狭間への支援は、単独の機関では対応しきれないケースなので、あらゆる機関との連携は欠かせません。ケースをしっかり見極めて、それぞれの機関の役割を考えることが大切です。支援する相手と、協力しあう機関の役割を知り、互いの苦手を補い合うことが必要だと思います。

前向きな変化に関われると、やりがいを感じます。
(長濱主事)



些細なことでも相談してください！
(馬場次長)

